

# 感染対策室

## 1 構 成 員

	平成 28 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	1 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	1 人	

## 2 教員の異動状況

川端 俊貴（診療助教）（H25.10.1 ～現職）

## 3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 27 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

### (4) 著 書（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 川端俊貴：壁内発育型胃 SMT に対する腹腔鏡下術中超音波検査の有用性  
    ラマン分光法の原理と胃癌診断への応用

消化器外科医に必要なちょっと先行く画像診断 監修；今野弘之，編集；海野直樹，株式会社メジカルビュー社 111-115, 208-213 ,2015

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

#### 4 特許等の出願状況

	平成 27 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

#### 5 医学研究費取得状況

（万円未満四捨五入）

	平成 27 年度	
(1) 科学研究費助成事業（文部科学省、日本学術振興会）	1 件	(130 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 科学技術振興機構(JST) による研究助成	0 件	(0 万円)
(5) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(6) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(7) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(8) 奨学寄附金	0 件	(0 万円)

(1) 科学研究費助成事業（文部科学省、日本学術振興会）

1. 川端 俊貴

基盤研究(C) 平成26年～28年度, 定量位相顕微鏡を用いた新規CTC(血中循環腫瘍細胞)検出器の開発  
平成27年 130万円

#### 6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

#### 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	0 件
(3) 学会座長回数	0 件	0 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	0 件
(6) 一般演題発表数	0 件	

#### 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	0 件

## 9 共同研究の実施状況

	平成 27 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

## 10 産学共同研究

	平成 27 年度
産学共同研究	0 件

## 11 受 賞

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

### 1. 科学研究費助成事業, 基盤研究(C):

< 定量位相顕微鏡を用いた新規 CTC(血中循環腫瘍細胞)検出器の開発 >

原発腫瘍組織または転移腫瘍組織から遊離し血中へ浸潤した細胞と定義される, CTC : Circulating Tumor Cells (血中循環腫瘍細胞) の新規検出器の開発を目的とした研究で, H27 年度には, 定量位相顕微鏡を用いて, 健常人白血球と癌細胞株とを撮影し特徴を学習させることで, 白血球を癌細胞株から高い精度で識別するアルゴリズムを確立することに成功した(AUC=0.99)。更には細胞を流すためのフローセルを作成し、この流路に細胞を流しながら撮影し位相像を取得する手法を確立した。

(川端 俊貴)

## 13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

## 14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

## 15 新聞, 雑誌等による報道